


唐松～五竜岳の岩稜足慣らし予備山行 天狗山・男山

実施日 2014年8月23日(土)
 天候 曇り時々晴れ
 リーダー 石原 勝正
 S L 伊藤 久雄
 参加者 斎恵美子、白石恵美子、石附智江、渋谷京子、中村友子、宇野輝代、石附恵理子、G(斎藤裕美) 計10名
 費用 自動車(ガソリン代&道路代)約3,000、 (620円)
 タイム 馬越峠登山口(9:50~10:45) 天狗山(11:00~11:50) 垣越山(12:20~13:10) 男山(13:35~15:10) 御所平登山口(15:15~15:45) 信濃川上駅

日本一の高原レタスの生産地として知られる川上村の北に位置する尖った二つの山が天狗山と男山です。天狗山と男山の縦走路は岩場の痩せ尾根と適度なアップダウンがあり、次週の唐松岳～五竜岳の岩稜尾根歩きの予備トレーニングとして企画された山行です。東京方面からのアプローチが不便なため、早朝6時30分に高尾駅南口をマイカー2台に分乗して出発し中央道経由で9時過ぎに信濃川上駅村営駐車場に、そこからジャンボタクシーを利用して20分ほどで馬越峠の登山口に到着です。



立原高原と川上村を結ぶ道路完成記念石碑の傍の小さな天狗山登山口の標識から登り始める。雑木林の中を20分ほどきつい

登りが続き稜線に上がると登山道の傾斜もなだらかになり、ときおり道端に小さな赤紫のかわいい花が咲いている。宇野会員によると「飯子菜(ままこな)」というらしい。

稜線も次第に露岩の目立つ痩せ尾根となり大きな松やシャクナゲが群生する登山道をアップダウンしながら次第に高度を上げる。ときおり尾根が開けると南面に川上村の白く反射するレタス畑の展望が広がり、正面には天狗山のピークを望みます。暫くして、天狗山の岩場の急登

が始まり灌木の間を登りきると山頂に到達する。山頂は石の祠と天狗山の標識が



石積みの中に埋められ、360度の展望が開け、これから登る男山への稜線ルート、山麓村のレタス畑の広がり、ゴルフ

コース、近隣の山々の眺望がすばらしい。ただし、残念ながら眺望できるはずの南アルプス、北アルプス、八ヶ岳、金峰山や瑞かき山の岩峰の山々などは白い雲が掛かってはっきり見ることができない。山頂からは一気に110メートルの標高差を下る岩稜の急傾斜で、登山道標識のリボンを頼りに両側の切れ

落ちた痩せ尾根や稜線上唯一のロープ場などを慎重に下り大深山遺跡(縄文遺跡)の分岐に到着する。ここから広く平坦な尾根道になり、暫く下った稜線上の最低鞍部から垣越山の登りに入る。垣越山のピークで30分の昼食と休憩をとる。



稜線はまた岩稜の痩せ尾根ルートや樹林帯の巻道などを交互に進む。時折、岩稜の崖上に出てルートを見失い標識のリボンを頼りに山道に戻るなどを繰り返しながら岩稜の痩せ尾根を通過し樹林帯に入ると男山直下の御所平分岐となる。

ここから5分の急登で男山山頂に到達する。男山山頂も天狗山よりもすばらしい展望が開け、こぶし会報用の集合写真を撮り、午後1時30分過ぎには山頂を後にすることとなった。

下山路は、御所平分岐まで戻り約30分の急傾斜の下りを過ぎて緩やかな林道を1時間、さらに30分の舗装道路歩きで信濃川上駅に帰着・解散となった。

今日は次週の唐松～五竜岳山行の岩稜歩きの足慣らしという意味で午後から雨という天気予報に若干の危惧もありましたが、天候と参加者皆さんのご協力に恵まれ、全員無事下山することができました。感謝!

(記・石原 勝正)
 (写真提供・伊藤 久雄)